

# 平成28年度 伊那市立伊那小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
『真事 真言 誠』  児童の目標 1 こつこつ勉強する 大きな自分を作り上げるために、勉強をこつこつやり、しっかりと根をはる。 2 友がきをつくる 一人ひとりの友だちが、みな同じように伸びていくために、助け合い励まし合っていける友がきをつくる。 3 とことんやり抜く 誠実に、自分のありのままを出し、とことん求め続ける。	1 豊かな学びを創造するための教師力の向上 学年研究会・連学年研究会の充実 確かな学力の定着とさらなる向上 2 「つながり」の中で子どもの育ちを促せる 幼稚園・保育園、中学校、保護者、地域とのつながり
	今年度の重点目標
	(1) 「総合」をとおして身につけた自ら求め学ぶ力を活かし教科学習においても意欲的な学習を展開することにより、確かな学力が定着するための授業改善をめざす。
	(2) 校内教育支援委員会の充実、また関係機関との連携により、個別の支援を要する児童や不登校傾向のある児童への支援に重点を置き、すべての児童にとって楽しい学校づくりをめざす。
	(3) 地域の協力を得ながら、地域に根ざした活動を展開し、児童がふるさとを愛する心情を育てる。

総合評価		
○年間7回の全校学習指導研究会、信州大学教授 畔上一康先生による全体指導等を経て、研究の成果の発表の場として38回目の公開研究を実施し、成果を得る。 ・公開研究会では、全国から約480名の参加者が来校。様々な立場からの意見をいただく中で、子どものとらえを見直し、子どもの求めに寄り添った支援ができていくについて学ばせていただく貴重な機会となった。 ○教師の姿として以下の視点で更に研修を続けて行く。 1 常に自己に問い続ける 2 授業と研鑽は-になっているか 3 学習指導の態勢はどうか		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 総合活動、あるいは日々の授業を進める中で、学力がどう身につけているのかの吟味を研究会、学年会等でおこなうことができた。その中で、子どもたちの学び・育ちについて具体的な姿が捉えられてきている。全国学力状況調査・NR Tでは、今後の指導に課題を残す項目がある。更に基礎・基本の定着を図っていききたい。	B b	○学校関係者評価では、2月実施の公開研の充実ぶりを大いに評価していただいた。地域や伝統によって支えられているものを大切にしながらも、今後に向けより子どもの内なる求めに寄り添ったものにしていかなくてはならないと感じている。 ○全教育課程において子どもの求めや願いに立った学習指導のあり方についての研究実践を積んでいくと共に、客観的な評価(全国学力状況調査、NRT等)を行いながら、基礎学力の定着について実態を捉え、対応を図っていく。
(2) 子ども相談室、児童相談所、医療機関、カウンセラー等外部機関との連携を進めることができ、支援の方向をより具体化していくことができていく。	B b	○家庭状況や子どもを取り巻く環境の複雑化などで、学校だけでは支えきれない事案が多くなっている。生徒指導係、特別支援コーディネーターを中心とした学校内組織の充実と共に、外部機関と連携し、定期的にケース会議を続けていきたい。
(3) 校外へ積極的に学びの場を求めて出る総合学習・総合活動の特性から、地域とかかわりを深める実践を重ねることができた。また、地域で子どもたちを見守り育ていく環境の推進として、『みまよせの子等を育てる会』や学校評議員会等をとおして、各地区との連携協力の推進をはかった。	A a	○「みまよせの子等を育てる会」で子どもの安全のための地域の取組について協議する場を持つことができた。今後、PTAの校外指導委員会、交通安全委員会との連携を図っていききたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○学級における教育課程(年間年間学習計画)の編成 本校では総合学習・総合活動を教育課程の中核に据え、学級ごとに学習指導要領に示される目標を総合学習、総合活動・教科・道徳・特別活動について学級ごとに年間学習計画を作成し、子どもたちにつけたい力を具体化している。	○学習指導要領に基づいた教育目標が総合学習・総合活動・教科・道徳・特別活動、外国語活動の中で確実に位置づけがなされているか。 ○具体的な目標と年間学習計画を立てると共に、子どもの求めや願いに寄せ、常に修正しつつその具現に努めているか。 ○子どもたちの実際の学びの道すがりが表れたものになっているか。
		○学習指導要領にそった本校教育課程の方向付け	○本校の総合学習・総合活動を中心とした編成となっているか。 ○学習指導要領の趣旨を生かしたものとなっているか。 ○職員の共通理解と内容理解やそのための研修を行っているか。
	学習指導	○基礎・基本の学力の定着	○1時間の中でつけたい力が明確になっているか。身につけているか。 ○教材研究、指導方法の工夫が十分になされているか。 ○個の姿をとらえ、その子に応じた支援ができていくか。 ○「まことの時間」が有効に活用されているか。
		○人権教育	○人権教育を全教育活動の中でおこなっているか。 ○子どもたちに人権感覚は育っているか。
生徒指導	○迅速に対応できる体制組織(集団不適合、いじめなどへの対応)	○児童の実態の把握は適切か。 ○課題に対して迅速に的確に対応できる組織となっているか。 ○対応と共にその見直しはできているか。 ○いじめにつながる行為を積極的につかみ、「友がき委員会」(いじめ防止対策委員会)で協議し、適切に指導しているか。	
	○外部機関との連携	○行政、市教委、医療機関、カウンセラー、地域との連携体制はできているか。 ○コーディネートは適切か。	
学校運営	安全	○登下校における安全	○地域・警察・PTAの協力をあおぎながら体制の整備ができていくか。 ○子どもたちへの安全指導ができていくか。
		○危機管理体制の整備	○危機管理体制の整備は適切か。 ○危機管理マニュアルを活用した訓練は行っているか。 ○緊急事態発生に向けて適切な検討をしていけるか。
	地域との連携	○地域・家庭との連携	○総合学習・総合活動等の学習を通じての連携の深まりが見られるか。 ○個人懇談、家庭との連絡等により、家庭との信頼関係を築いているか。 ○地域と連携し、子どもの安全を守る取組ができたか。
		○学校からの情報の発信	○学校便り、学年便り、学級便り等によって子どもたちの姿を伝えることができていくか。 ○マスコミの取材や教育関係の情報紙等で学校の姿を正しく伝えているか。
○PTA活動の充実	○伝統的に行われている行事は大切にしながらも、より主体的な活動になっているか。		
研修	○教育哲学	○唐木順三先生の「朴の木」を読み合わせ、各自が日々の自分の実践や子どもとかかわりを重ね合わせながら教育に対する姿勢を磨いているか。	
	○総合・授業研修	○職員がお互いの授業実践から学び合い、教師としての指導力を向上させていくか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○全学級、全職員の年間学習計画を計画の段階、見返しの段階、まとめの段階等に職員相互で討議しながら作成し、修正を加えながら、教育課程を編成した。 ○学年内、連学年、全職員で子どもたちの実態を元に討議し合い、作成をすることで、実態にあったもの、願うべきものに近づけていくことができた。 ●子どもの学びの可能性を思い描くことが難しく、子どもたちの活動の転回へ向けての学習材を見極める必要がある。	A b	○中核となる活動の素材の魅力とそこからつくり出される学びを見据え、学習指導要領の内容とつなげながら年間学習計画の作成と見直しを図っていききたい。 ○学年研究会・連学年研究会のさらなる充実を図り、日常的な語りや傾聴による研修により、互いの実践に学び合う場を大事にしていく。 ○教師自身が材の価値や学びの可能性を吟味できるよう、学年研、研究部会のあり方を更に工夫していききたい。
○総合研究会、先輩の先生による講演会、人権教育、特別支援教育研修会などを通して、職員の理解を深めることができた。	A a	○今後も様々な立場で活躍されている方から学ぶ場を持ち、現在の教育課題を踏まえながら、本校にとって不易なるものを見極めていききたい。
○1時間の学びに生きる学習材の吟味や授業形態の工夫などにより、授業が楽しいと感じている児童が増えている。 ●学力検査、NRT等児童の基礎力の定着は向上してきている。全国や県、市との比較ではそれを下回る項目もあり、「まことの時間」を活用した繰り返し学習や家庭学習などで個別の支援を要する傾向がある。	B b	○個々に寄り添ったよりきめ細やかな指導を、個別の対応やグループ活動の有機的な活用、客観的な評価を生かすこと等をとおして充実させる。 ○全教育課程で子どもの求めや願いに立った学習指導のあり方についての研究実践を積み重ね、明日の授業づくりにつながる教材研究の時間を確保する。
○人権講演会、なかよし月間の取組をとおして人権に係わる教育を実施できた。 ○総合活動などを通じて、自己を表出する子どもたちが育ってきている。	B b	○全教育活動の中で、常に意識を持って取り組んでいききたい。
○担任一人が抱え込むのではなく、生徒指導主任や特別支援コーディネーター等が中心となり、学校全体で情報共有や支援の方向について検討し合うことができた。 ○担任のみならず、教科担任(専科)、養護教諭、教頭など、様々な立場の職員が児童の気持ちを受け止めるよう努め、集団不適合やいじめなどの問題を早期につかみ、「友がき委員会」で協議し共通理解を持ちながら対応した。 ●個別の支援を要する児童が増加し、支援会議の時間の確保が難しい。	A b	○清掃無言、児童集会、総合活動などの中で自分の行為・行動を見直ししたり、規範意識の向上を図ったりすることが更に大切である。 ○各学級の児童の人間関係について、学年会で情報交換し合い、具体的な課題を共有しながら支援の方向を検討していききたい。 ○外部機関との連携、教育相談機能の充実を図り、より的確に対応できる組織、全職員で取り組める組織づくりを目指したい。
○外部機関との連携により、解決の方向に向かったり未然に防げたりした事案があり、ありがたい。 ●事案が複雑で深刻なものが出てきている。一層の連携とその継続が必要となっている。	A b	○外部機関との連携は一層大切となる。生徒指導主任、特別支援コーディネーターが中心となる支援会議の充実をさらに図っていききたい。 ○子ども相談室、スクールカウンセラーなどと継続的に会合を持ち、共通基盤に立った支援をしていききたい。
○様々な方の協力のお陰で、大きな交通事故や不審者などによる事案は起きなかった。 ●安全ボランティアの活動状況を再調査し名簿を整え直したが、地域の中での位置づけについて再検討が必要である。 ●保護者、地域の一部の方に、学校前道路の通行規制が徹底されない。	B b	○安全ボランティアの活動についてPTAの担当委員会を窓口にして学校との連携を充実させていききたい。 ○警察のスクールサポーターと連携しながら、児童の安全のための具体的な指導を考えて実施していききたい。
○防火施設・設備を改善していただくことができた。 ○早め早めの対応、保護者への連絡に努めた。 ○実際の災害時を想定し、ねらいを明確に据えながら訓練することができた。	B b	○何時、災害が発生しても対応できるような体制ができるよう、見直しと訓練を行っていききたい。 ○避難所になったときの対応について、市のマニュアルを職員間で共有し、機能するものにしていく。
○総合学習・総合活動を通して地域の人たちとかかわりに深まりを得ることで子どもたちの学びが深まった。 ○各地区の諸団体の代表者が集うみまよせの子等を育てる会で、子どもの安全を守る取組について区ごとに話し合う機会を持つことができた。	A b	○地域の方を「総合」に巻き込んで連携が深まる実践を進めていききたい。 ○家庭の理解協力を得ていけるよう発信、日々の連絡相談などさらに大切にしたい。学校教育に批判的な考えを持つ保護者との対応について、今後も全校体制で臨んでいきたい。
○保護者からのアンケートなどで、学級通信により「学校での生活の様子が伝わりありがたい」との声をいただいている。 ○本校への取材は多いが、取材側の意図に流されないように、本校の大切にしていくものが発信できるように配慮してきた。	B b	○「総合」が教育課程の柱であることや、通知表がないことから、お便りなどこまめに出すことで学校での様子を家庭に細やかに伝える必要がある。学級差をなくしたい。 ○マスコミからの取材依頼は多いが、マスコミに振り回されるのではなく、学校が大切にしていることを広く発信し振り返る機会となるように配慮しながら対応したい。
○児童数学級数の減少によりPTA組織の見直し・改編について検討することができた。 ○会則の見直し変更をはじめ運営の見直しを図ってきた。		○理事会、総会などで理解を深めながら改善策に理解を得られるよう、慎重な検討を進めていききたい。
○年間6回の「読み合わせ」や、「まとめの会」における先達による講演等をとおして、人として、教育者としてのあり様を省みたり学び深めたりすることにつながった。	A a	○変化の大きな時代だからこそ、真の教育哲学を各自が持つことを大切にして取り組みたい。「読み合わせ」を今後も一層大切にして継続していく。
○年間7回の校内学習指導研究会、日常的な教材研究を主とした研究部会などで、切磋琢磨する姿、忌憚なく論議する姿が職員集団の中に見られている。	A a	○職員構成は毎年更新されるが、子どもの事実に基づいてお互いの児童理解について研鑽し合う良さを今後も引き継いでいく。

